



2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 松ヶ江北学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	松ヶ江北小学校 第5学年 1クラス17名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科等名（総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（車いすバスケットボール小学生大会）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	パラリンピックや障害者スポーツを調べたり、体験をしたりする活動を通して、パラスポーツの楽しさを実感するとともに障害をもった方たちと共生する社会について考える。また、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	<p>○ パラリンピックについて調べ、どのような競技・歴史があるのか、パラスポーツが行われている意義等について考えを深める。</p> <p>○ 障害者スポーツセンターの方を通じて、車椅子バスケットボールに出会わせ、体験をさせることでパラスポーツの意義について考えをもたせる。（8月～11月 週1回）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p><練習のふり返しから></p> <ul style="list-style-type: none"> 今日は、声かけがとても大事だということが分かりました。2人でランニングパスをする時は、声かけがないとつながりにくかったです。 一人の練習よりも多くの人と練習する方が難しかったです。意識して声かけをしないと気持ちが伝わりにくいたので、お互いの声かけが大切だと思いました。 <p>○ 車椅子バスケットボールの競技者から話を聞き、車椅子バスケットボールを覚えてもらう。</p>



- 車椅子バスケットボール小学生大会に出場し、試合を経験したり、他校の5年生と交流したりする。



- 車椅子バスケットボール競技者である福沢翔さんの講話を聞く。福沢さんの思いや生き方について聞くことを通して、障害や共生についての考えを深める。また、他のパラスポーツを体験しパラスポーツについて考えを深める。



- 学習したことをふり返り、誰もが気持ちよく生きるために必要なことは何かを考え、交流する。また、障害者スポーツの学習を通して東京オリンピックパラリンピックにむけての関心を高める。

6 主な成果

- 事業を活用し、パラスポーツにかかわる方との交流やパラスポーツ体験を位置づけたことで、子どもにとって身近にあるものだと考え、学習を意欲的に続けることができた。
- 障害者スポーツセンター(アレアス)の方と連携することで、交流できる方を紹介していただいたり、パラスポーツを体験できる場を設定したりすることができた。
- 車椅子バスケットボールの選手の話を知ったり、一緒に活動したりすることで、プロの選手の技術を実感するだけでなく、選手の生き方や考え方にふれることができ、キャリア教育的な部分も学習の中に組み込むことができた。
- 「障害者スポーツ」を学習材にしたことで、障害に対する理解を深めることができた。

【学習後の子どものふり返り】

- 私は、福沢さんのお話の中で出会いのことが心に残りました。看護師さんが車椅子バスケットボールの漫画をもってきてくれなかったら、福沢さんは選手になれていなかったし、友だちがいなかったら車椅子バスケットを辞めていたかもしれません。そう考えると、一人ひとりの出会いを大切にしていきたいと思いました。
- 私が一番、心に残ったことは、指導員の田中さんが車椅子バスケットは障害のもっていない人でもできるといったことです。「障害があるとか、ないとかに関わらず、みんなで楽しむために」という話を聞いて、私も「誰もが楽しめる」ということを考えて行動したいと思いました。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校は、毎年、5年生が車椅子バスケットボールに取り組むカリキュラムが組まれている。そのため、パラスポーツは子どもにとって身近になっており関心は高い。 ○ 障害者スポーツセンターとの連携。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他教科との時間数の調整。 ○ ゲストティーチャーや用具等の確保。(本校は、障害者スポーツセンターと繋がりがあったので、スムーズにいきました。)
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 来年度も5年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムとして位置づけ、継続して実践する予定である。